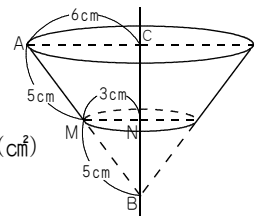
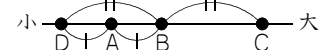
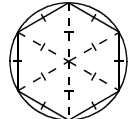


## 解 答

- ① (1) 3 (2) 2 (3) 4  
 ② (1) 35度 (2) 時速40km (3) 54人 (4) 解説参照 (5) 10通り  
 (6)  $D < A < B < C$  (7) ① 14分 ② 1800m  
 ③ (1) 96 (2) 84 (3) 90  
 ④ (1) 4 (2) 12 (3)  $D < F < E < C$   
 ⑤ (1) 【A群】 (2) 501 (3) 6, 9, 11, 14, 16

## 解 説

- ② (4) 1辺が1の正六角形は円の中にぴったりとかきこむことができ、この正六角形のまわりの長さは6です。したがって、円周の長さは6より長いので、直径の2でわると、円周率が3より大きいことがわかります。
- (5) ○と●の個数で場合分けをします。(○, ●)=(0個, 6個)(6個, 0個)(1個, 5個)(5個, 1個)の場合は、それぞれ1通りずつ、(○, ●)=(2個, 4個)(4個, 2個)の場合は、(図1)のようなそれぞれ2通りずつあります。(○, ●)=(3個, 3個)の場合は(図2)のような2通りあります。したがって、全部で、 $1 \times 4 + 2 \times 3 = 10$  (通り)
- (6)  $A + B < C + D \cdots \textcircled{1}$ ,  $2 \times A = B + D \cdots \textcircled{2}$ ,  $2 \times B = C + D \cdots \textcircled{3}$ とおきます。(①×2)式→ $A + A + B + B < C + C + D + D$ と(②+③)式→ $A + A + B + B = B + C + D + D$ を比べると、 $B < C$ とわかります。また、②からBとDの平均がA、③からCとDの平均がBとわかりますから、4つの数A, B, C, Dには右のような関係があると考えられます。
- (7) ① グラフから、0～6分は2人が歩いていて、6～16分はどちらか1人が歩いています。(1080-600)÷(16-6)=(毎分)48(m)、16～20分は2人とも休憩していて、20～25分は2人が歩いています。 $600 \div (25-20)=(毎分)120(m)$ より、Aの速さは毎分(120-48)=72m、Bの速さは毎分48mとなるので、Aの休憩時間は(20-6)=14分です。
- ② 0～6分の間に2人で進んだ距離は、 $120 \times 6 = 720(m)$ 。したがって、出発前の2人の間の距離は、 $1080 + 720 = 1800(m)$
- ③ (1)  $6 \times 6 \times 3.14 \times 8 \times \frac{1}{3} = 96 \times 3.14 (cm^3)$
- (2) 右の図より、円すい台となります。 $96 \times 3.14 \times \frac{7}{8} = 84 \times 3.14 (cm^3)$
- (3)  $6 \times 6 \times 3.14 + 3 \times 3 \times 3.14 + (10 \times 6 - 5 \times 3) \times 3.14 = 90 \times 3.14 (cm^2)$
- ④ (2)  $128 = 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2$ より、 $2 \times \cdots \times 2 = 2 \times \cdots \times 2 \times 2 \times \cdots \times 2$ 。  
 $84 \div 7 = 12$
- (3) かける回数を、84, 48, 36, 24の最大公約数12にそろえて大小を比べます。C→2を84回かける=128を12回かける、D→3を48回かける=81(=3×3×3×3)を12回かける、E→5を36回かける=125(=5×5×5)を12回かける、F→11を24回かける=121(=11×11)を12回かける、となるので、 $D < F < E < C$ となります。
- ⑤ (1) 25個で1周期と考えます。 $101 \div 25 = 4$  あまり 1より、5周期目の1個目ですから、【A群】です。
- (2) 【A群】は5個で1周期と考えると、各周期の先頭は加える数が25の等差数列となっています。 $101 \div 5 = 20$  あまり 1より、21周期目の先頭ですから、 $1 + 25 \times (21 - 1) = 501$
- (3) 25個の周期の先頭を□, n番目とすると、右の表のように考えることができます。(n+3)番目までの和は、次のような連続した5つの整数になります。【A群】…□×4+39, 【B群】…□×4+38, 【C群】…□×4+37, 【D群】…□×4+36, 【E群】…□×4+40。また、(n+4)番目までの和は、すべての群で(□×5+60)となりますから、5つの群の和は次の周期の先頭で、再び連続する5つの整数になります。したがって、各周期の中で、n番目と(n+3)番目が条件を満たしますから、N=4よりも大きい{6, 9, 11, 14, 16}とわかります。



N番目	n	n+1	n+2	n+3	n+4
【A群】	□	□+9	□+13	□+17	□+21
【B群】	□+1	□+5	□+14	□+18	□+22
【C群】	□+2	□+6	□+10	□+19	□+23
【D群】	□+3	□+7	□+11	□+15	□+24
【E群】	□+4	□+8	□+12	□+16	□+20